



# きずな

2015年1月号

～発刊にあたって～

地域医療相談室 室長 羽成 恭子



小田原市立病院の地域医療相談室は、平成12年に看護師1名と、相談員1名で発足しました。今日ではスタッフの数も増え、地域医療連携・医療相談を担っております。いわば、患者さんを中心にして、患者さんがよりよい医療を円滑に受けられるように、または患者さんやご家族が、地域でよりよい生活が送れるように、医療・福祉・介護のかけ橋になる部門です。日本の高齢化はさらに進行すると予想されており、今後も医療や介護の需要は増加することが見込まれています。県西地域も例外ではありません。そのため国は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるようにと、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。このような状況ですので、当院の地域医療相談室は、病院においても、地域においても、今後さらに要となる役割を發揮することが求められています。患者さん・ご家族、院内医療スタッフ、地域を結び、患者さんにとってよりよい環境を整えることができる地域医療相談室であるようにメンバーが一丸となって業務に取り組んでいこうと思っております。今後どうぞよろしくお願い致します。



## 地域医療相談室理念

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. より質の高い医療の提供を目指します。
3. 地域の医療機関と連携、協力して医療を進めます。

“きずな”スピリッツ

医療相談係長

山崎 正



日ごろ、当相談室の業務についてご理解とご協力をいただき感謝いたします。さて、今後おとずれる超高齢化社会に対処するため、社会保障・税の一体改革として、今年度に診療報酬改定がなされ、病床機能報告や地域医療支援病院の承認要件変更など新たな医療制度が始まりました。加えて、地域包括ケアシステム構築、医療・介護総合確保推進法成立など、在宅医療の充実やチーム医療の推進を図り、住み慣れた地域で継続的な生活ができるよう制度改革がなされつつあります。当院を取り巻く社会情勢が目まぐるしく変わる中、地域医療機関や福祉施設との“連携”がますます重要となります。当相談室がその役割を担うこととなりますが、地域との連携には皆様のご協力が不可欠です。今後ともご指導をお願いすると共に、“きずな”スピリッツを持って皆様と歩んでいければと思っております。

## がんサロン「ほっとサロン」のご案内

がんの患者さま、ご家族のための交流の場所です。  
がんを抱えながら療養されている方が、同じ病気を  
持つ人とお話しすることで、

- ①自分らしい病気との付き合い方を身につける
- ②生活の質の向上、不安の軽減、心の安定を図ることができると考えます。

患者さまを支えるご家族の方も悩みを語り、分かち合うこと  
によって心の負担を軽くし、患者さまに寄り添う力になればと  
思います。



### ほっとサロン

日時	平成27年1月27日(火) 午後1時～午後2時30分
場所	病院1階 放射線科並び【入院患者さまおくり確認場所】
対象	がん患者さま・ご家族の方 他の医療機関で治療を受けている方でも参加できます
参加費	300円 (お茶代・資料代)
ミニ講座	「排泄ケア (便秘・下痢) について」

☆開催時間内の出入りは自由です☆

申込 地域医療相談室内  
がん相談支援センター がん専門相談員 一藤木 (電話0465-34-3175)

今後の予定  
3月31日(火) 午後1時～午後2時30分 ミニ講座「家で過ごすために」

### 参加した方からは

『ほかの人の話を聞いて元気もらった』『自分と同じように悩んでいる人を見て“自分だけではない”と知り、気持ちが楽になった』『治療の後遺症などの対処や工夫について具体的に情報交換ができて良かった』といった感想をいただいています。  
お一人でもどうぞお気軽にご参加ください。



#### ほっとサロンスタッフ

看護師:緩和ケア認定看護師  
皮膚排泄ケア認定看護師  
退院支援看護師  
ソーシャルワーカー

第5回 緩和ケア市民公開講座が開催されました。  
参加いただいた皆様のご意見・ご感想を一部掲載させていただきます。

### 第1部特別講演「ともに前進～がんになってもフットサルを続ける理由～」

- ◆「自分を支えてくれる方々への感謝の気持ちや、自分を見て元気になってくれる方々のためにプレーする」という言葉にとても胸をうたれました。また、久光選手が頑張っている姿を拝見できてすごくかっこよかった。久光選手が何回も言っていた「健診の大切さ」についてはみんな当てはまる事なので、私自身も広めていきたいと思った。
- ◆私もがん患者です。ああそうだったと頷きながら聞いていました。元気になって皆に恩返しをしようと誓った初心を思い出すことができました。
- ◆告知から現在に至るまでの葛藤が様々にあったと思います。若いから年老いたから・・・に関係なく、前向きに生きる、それには周囲の支え言葉かけがホントに大切であることを聞かせていただきました。看護師として、いつもの言葉かけ、お決まりの言葉・・・これでどう患者さんの気持ちを軽くできるか、辛さを分かちあえるか・・・などを考えるとつまる思いですが、やはりコツコツと患者さんに対しての言葉かけをしていることが重要だと学びました。
- ◆がんになってそれを支えるまわりの環境、およびそれを前向きに受け取る本人の意志が大切なことが良く分かりました。この様な受けとめが出来る方は、絶対に全快の方向へ行くと感じました。私も半月前がんと言われ落ち込んでいたがそんなことでへこたれてはだめだと感じました。本日はありがとうございました。



### 第2部対談「がんになっても自分らしくいるために」



- ◆精神症状・看護師から目線のお話や、身体症状の医者のお話はすごく分かりやすかった。久光選手が実際に起きたことと関連づけて説明してくれたので、理解しやすかった。また、ワーカーさんの話もすごく分かりやすかった。「そんなこともあるんだ」という気持ちになった。
- ◆自分ががんになったら、前向きに考え、生きようとする力を高め、いい生命力を高める。そのためには、自分のいちばん好きなことをやる。例えば音楽・カラオケ・スポーツなど。そして細胞組織をためればがんは絶対治る。そう信じています。明るく生きるため、緩和ケアチームのみなさん、そのように入院している人を励まして下さい。
- ◆こんなに親身になってくれるスタッフがいる病院があるなんて小田原市民は幸せです。うらやましいです。



久光選手と緩和ケアメンバーとの対談の様子

発行者 小田原市立病院 地域医療相談室  
発行月 2015年1月  
連絡先 小田原市久野46番地  
小田原市立病院 地域医療相談室